

青森・函館
両市町会連合会
交流研修会

6事業部会ごと知恵を出し合う

次の函館開催に向け方法など検討へ

隔年開催が決まってから第2回となる青森・函館両市町会連合会交流研修会は10月13、14の両日、青森グランドホテルで開き、青森側40人、函館側39人が出席しました。

今回も前回と同様、総務、建設、交通安全防犯、環境衛生、福祉、女性の6事業部会ごとに、「今後の交流のあり方について」「自主防災組織の活動について」「高齢者の交通安全運動はどうあるべきか」「ごみの減量化について」「介護保険制度改正が地域に与える影響について」「各種健康診

全体的な質疑・意見交換を行い、1時間30分に及ぶ全体交流会を終えました。

この中で函館市側の総務部会から提案された「今後の交流のあり方について」は、「函館側から



青函交流研修会での全体会議



各事業部会の交流（総務部会）



各事業部会の交流（女性部会）



八甲田山雪中行軍遭難資料館前で記念撮影

査と町会女性部の関わりについて」などの交流テーマで1時間30分にわたって、活発に意見を交わしました。

各事業部会の研修会が終了したあと、会場を2階大広間に移して両市町会連合会の全体交流会を開会し、両町会連合会の出席者を紹介したのに次いで、青森市側の佐藤久雄会長が心からの歓迎と建設的な怠たんのない交流を期待するあいさつ、また函館市側の谷口利夫会長が各部会に引き続いて意義ある交流にしてほしいと訪問のあいさつを行いました。

各事業部会の交流結果については、佐藤会長を座長に青森市町会連合会の各部会代表が報告し、

休止とか中止の意見があったというのは心外（函館市側の出席者）、「休止がやむを得ないにしても、必要に応じて柔軟に交流できる含みを残したい」（青森市側の出席者）、「ツインシティー提携の盟約は青函交流の要であり、大事にしなければ」（函館市側の出席者）など多くの意見が出されました。

結局、この問題は函館市側が白紙撤回し、19年度に函館市で開催予定の交流会についても、どのような方法・内容で行うか、お互いに検討していくことになりました。

このあと懇親会に移り、宗家石川流ちびっ子組による見事な津軽手踊りや参加者によるカラオケ等もあり、盛り上がりを見せ、1日目を終了しました。

2日目の14日は、函館市町会連合会の出席者に、案内役の青森市側を加えた一行50人は午前9時、ホテル前を出発し、八甲田山雪中行軍遭難資料館（幸畑）、引き続き陸上自衛隊青森駐屯地防衛館（浪館）を見学して全日程を終了しました。

除排雪事業
計画説明会

市民からの相談窓口を一元化

新たな仕組みでGPSも登場

青森市の平成17年度除排雪事業実施計画説明会が11月14日(月)中央市民センターで開かれ、町会連合会から正・副会長、地区連合町会長ら47人が出席し、昨冬の記録的な豪雪を踏まえた新たな除排雪の仕組み、問題点についてたどりました。

初めに、市から除排雪事業実施計画の概要が説明され、新しい取り組みとしてパトロール班が6班から8班になったこと、市民からの相談や要望の受け付けが新たに設けた市民相談班に一元化されたことをはじめ、除排雪が幹線道路や生活道路など延長1,305.49キロメートルになったことが報告されました。浪岡との合併などから昨年度より136.69キロメートル増えたといえます。

除排雪の実施基準等は昨年と変わらず、幹線道路では降雪がおおむね10センチ以上、その他の路線はおおむね15センチ以上で、かつ交通の確保が困難と認められる場合に実施する体制です。

特に除排雪の見直しでは、パトロール体制強化と相談窓口の新設のほか、人工衛星により位置が



除排雪の仕方を質問する出席者

分かるGPS端末の活用、業者の作業能力等に合わせて延長の長い工区を細分化するなど除雪体制を改めたことなどが報告されました。

このあとの質疑では、町会連合会側から玄関前・車庫前・ごみ置き場への雪のかたまり放置、交差点付近への雪盛り、アパート住人の路上駐車、委託業者の適正な指名についてなど多くの質問が出されましたが、歩道が歩けない状態や交差点の水たまり問題を含め、市側は市民相談窓口を中心に対応する方向を示しました。

除排雪請負業者への指導徹底 不法駐車を取り締まり強化を

市長と警察署長に要望書

町会連合会は、降雪期を前に毎年各町会が対応に頭を痛めている除排雪請負業者の徹底指導と不法路上駐車対策について、11月4日(金)に青森市長と青森警察署長に要望書を提出しました。

◇除排雪請負業者の指導強化等に関する要望 (青森市長へ)

- ・除排雪請負業者に遵守事項を守らせ、除排雪にばらつきが出ないように指導を強化すること
- ・地区連合町会主催の除排雪説明会には、請負業者のオペレーターを必ず出席させること
- ・除排雪後の請負業者によるパトロールは、速やかに責任を持って対処させること
- ・道路交差点付近の雪盛りを解消すること

- ・雪処理条例を守るよう監視と適正な措置を講じること

◇不法路上駐車を取り締まり強化に関する要望 (青森警察署長へ)

- ・町会と連携し、不法路上駐車を取り締まりを強化してもらうこと
- なお、青森警察署は要望に応え、不法路上駐車関連の罰則として3つの態様を示した警告文書を出しましたので、町会連合会は11月22日(火)に各町会長に毎戸回覧を依頼しました。



また、9月15日(木)に町会要望の強い「新規街路灯の設置促進」及び「道路側溝の整備促進」を図るよう、青森市長に要望書を提出し、促進の働きかけをしました。

第28回
町内女性
の集い

よりよいまちへ市長と意見交換

①悪質商法②健康チェック③子育て支援

第28回町内女性の集いは、17年11月7日(月)市文化会館5階大会議室で260人が参加して開かれ、「町内女性と市長との懇談サロン」と銘打って佐々木市長が座長をつとめ、①悪質商法②健康チェック③子育て支援の3つをキーワードに意見を交わしました。今回は市から女性の理事、参事、課長ら3人も出席し、盛り上がりを見せました。

1つ目の悪質商法では、初めに座長が架空・不当請求から振り込め詐欺、点検商法、催眠商法など広い見地から情報を提供したあと、女性部3人が体験談を報告しました。「携帯電話料金の督促で、息子が非番で家にいたので対応し、被害に遭わなかった」「身内の者が催眠商法に引っかかり、高い羽毛布団を買わされた」「社会保険事務所と名乗り、息子の勤め先や住所、電話番号を聞こうとしたので断った」という内容です。

2つ目の健康チェックでは、座長が短命県日本一を返上するため検診率向上に取り組み、元気プラザ設置に至ったことを情報として提供し、「検診を受けていない人は是非受けてください」とお願いしました。次いで女性部4人が「子宮がんや乳がんの手術で助かった」「C型肝炎ウイルスの



体験談を報告する出席者

キャリアといわれ年1回の検査を行っている」「娘が子宮がんの手術で助かったのも検診のおかげ」と報告しました。

3つ目の子育て支援では、座長は子供総合計画の策定や集いの広場「さんぽぽ」、子供支援センターの設置、さらに病児一時保育事業について情報提供し、女性部2人が「小学生への声掛け運動」「共稼ぎの親が病児一時保育で大変助かった」例を報告しました。

このあと、市の女性理事らはパンフレット「悪質商法に気をつける」の活用、元気プラザの積極利用、子供たちを地域の子として育てることの重要性などを強調しました。

17年度の町会長研修会

街路灯など働きかけを要望

町会長と町連役員が意見交換

17年度の地域協議会ごとの「町会長研修会」と「町会長と町会連合会役員との意見交換会」を、10月20日(木)から11月22日(火)にかけて、別表の通り開きました。

5地域とも研修会終了後、町会長と町会連合会役員との意見交換が行われました。いずれの地域でも各町会が頭を痛めている問題として、「街路灯の新設」「道路側溝の整備」「私道の整備」「信号機、ロードミラーの設置」に対する市などへの働きかけの要望や「アパート入居者のごみ出しと町会未加入の問題」「世帯台帳への協力が得られない」「町会長の傷害保険を見直すべきだ」など町会連合会に対する意見・要望が多く出されました。

地域協議会名	開催日	会場	参加者	テーマ
東部 (93町会)	10.20 (木)	浅虫 「辰巳館」	43人	「高齢化社会における食生活について」
南部 (102町会)	10.25 (火)	県教育館	44人	「介護保険制度について」
西部 (90町会)	10.27 (木)	沖館市民センター	58人	「新幹線開通と石江地区の開発について」
北部 (30町会)	11.14 (月)	油川市民センター	21人	「青森市のごみの現状と減量化のためのリサイクルについて」
中部 (58町会)	11.22 (火)	古川市民センター	35人	「市社協並びに民生委員、児童委員と町会の関わりについて」

理事・部会員
研修会

「ごみの減量化にどう取り組むか」

紙類の資源化率アップを第一に

町会連合会は12月7日(水)、市文化会館に県環境生活部環境政策課循環・環境産業グループの澤畑輝和氏を講師に迎えて、「ごみの減量化にどう取り組むか」をテーマに17年度理事・部会員研修会を開きました。



ごみの減量化の必要性を強調する澤畑氏

澤畑氏は「青森市のごみの減量化でお願いしながら話を進めていきたい」と前置きし、本県がごみの排出量で全国4番目に多いこと、リサイクル率も全国2番目に低いことなどを指摘。県環境政策課が作成した資料「家庭でできるごみの減量化

～混ぜればごみ、分ければ資源～」をもとに分かりやすく説明、出席者65人の関心呼びました。

「青森市の資源ごみの収集量が15年度から16年度にかけて若干減っている。資源ごみの分別をきちんとやられていないとすれば、町会長さん方が先頭に立って指導していただきたい」と述べ、同時に15年度の本県のごみ排出量、県民1人1日当たりの排出量をあげ、「全国に近づくためには、さらなる減量化が必要」と強調しました。

本県の地域ごとには、生活系ごみ・事業系ごみの排出量は「東青」が極めて多く、「青森市の排出量が減れば、全国のワースト4番目を脱出できるのではないか」とも。資源化率を高めるためには「排出量を減らし、分別回収と子供会などの集団回収を増やさなければ全国に追いつけない」と指摘。「全国との差が大きい紙類（新聞、雑誌など）の資源化率を高めることによって、全国に追いつけるのでは」ともいい、改めてお願いしました。

アパート等の入居者問題

粘り強く協力をお願い

不動産取引業2団体と懇談

町会連合会は、各町会が頭を痛めているアパート等入居者のごみの出し方と町会加入促進で市内の2不動産取引業団体と懇談会を開き、協力を依頼しました。

9月16日(金)に、これまで懇談していなかった全日本不動産協会青森支部と懇談（青森支部11人、町会連合会7人出席）し、町会連合会から入居者の実情を説明したあと、活発に意見を交わしました。

支部長から「時間がかかるかも知れないが、できることから協力したい」との前向きな姿勢が示されました。

また、10月26日(水)には県宅地建物取引業協会青森支部と懇談（青森支部5人、町会連合会6人出席）し、活発に意見を交わしましたが、支部長



アパート入居者問題で話し合い

から「アパート等所有者への連絡」及び「内容にもよるが会員への協力依頼文書は、町会連合会長と支部長連名とする」「これからの取り組みはお互いに相談しながら進める」ことで意見が一致し、協力へ前進の姿勢が見受けられました。

意見の中で、「町会が積極的でないところがあり、やりづらい」「町会に加入しなければならないことを入居者に文書で周知すべきである」などの意見もあり、両団体の会員すべての協力が得られるまでには、まだ時間がかかるものと思われませんが、今後も懇談を続け、粘り強く協力をお願いすることとしています。

大事な有価資源物

集団回収 やらなきゃ

町会連合会も呼びかけ

青森市の資源ごみの回収は、行政が行う「分別回収」と各団体が自主的に行う「集団回収」の2本立てになっています。

現状では行政の分別回収が大半で、指定業者が回収・所定の処理施設へ運搬、中間処理されるためコストがかかり、1キロ当たり8.3円の税金が投入されています。

これに対し集団回収の場合、町会、PTA、子供会などが中心となって、新聞・雑誌・ダンボール・アルミ缶・ビールびん・1升びんなどの有価資源物を自主回収し、業者へ一括して売り渡すため、ほとんどコストがかかりません。

以上のことから、集団回収には①ごみ処理コストの軽減②ごみの減量化③資源の有効活用④環境保護などのメリットがあります。

さらに回収の団体には市から1キロ当たり3円の奨励金が交付されるほか、回収業者からは売却代金が受けられます。

集団回収をはじめよう!!
—有価資源物回収事業—

【目的】 青森市、PTA、子供会等の有志が中心となり、自治会、町会等と連携し、資源物の分別回収・分別処理を促進し、資源物の有効活用を図ります。資源物の分別回収・分別処理を促進し、資源物の有効活用を図ります。

【回収対象品】 新聞・雑誌、ダンボール、アルミ缶、ビールびん、1升びん

【回収方法】 自治会、町会等の有志が中心となり、資源物の分別回収・分別処理を促進し、資源物の有効活用を図ります。

品名	1kg	2kg	3kg
新聞紙類	214.37円	156.129円	149.500円
資源物合計	643.122円	468.369円	448.500円

【問合せ先】 青森市 資源管理課 廃棄物・リサイクルチーム
TEL: 791-4824 FAX: 791-4818

檀原市の連合会と交流会

“問題点”で活発に意見交換

行政や社協との関わりもテーマに

町会連合会は17年10月21日(金)、日本文化の発祥地でもある奈良県檀原市の自治委員連合会の一行13人を、市福祉増進センターに迎えて交流会を開きました。同自治委員連合会は、16年秋に来青の計画でしたが、台風の襲来で中止となり、1年遅れで実現したものです。

佐藤久雄町会連合会会長と中井靖教檀原市自治委員連合会会長が相次いであいさつのあと、両連合会の自治組織等について事務局から説明がありました。また、檀原市側からは町会連合会の事業

現在町会単独では、372町会中44町会(約12%)が集団回収を行っています。町会の運営資金補完の一環として、町連では実施方の検討を呼びかけています。

ご相談は「青森市清掃管理課廃棄物・リサイクルチーム」(電話761-4424、FAX761-4416)へ。

「振り込め詐欺に気をつけよう」 「子供たちを魔の手から守ろう」

各町会にチラシの回覧を依頼

町会連合会では、悪質商法や子供の連れ去りが大きな社会問題となっていることから、手を取り合って地域の人たちを守り抜こうと、各町会にチラシの毎戸回覧を依頼しました。

チラシのタイトルは「振り込め詐欺と悪質リフォームに注意しよう」。前段は、いわゆるオレオレ詐欺、架空請求詐欺、融資保証金詐欺の3種類の総称である振り込め詐欺と、悪質リフォームに絶対に引っかけられないようにしようという内容。後段は「あなたの子どもに魔の手が近づいています」の見出しで、子どもたちを地域社会で犯罪から守ろうと訴えています。

チラシは、町会連合会が青森警察署、青森地区防犯協会とタイアップして作成したものです。



檀原市連合会と意見交換

内容、行政や社会福祉協議会との関わりについての質問もあり、双方の抱える問題点で活発に意見交換を行いました。

最後に檀原市自治委員連合会の吉村章副会長からお礼のあいさつがありました。檀原市の人口は125,000人(17年4月現在)です。



健康教室開催182回に 地区があげて取り組む

当町会では、月に一度健康教室を開いています。住民の要望にこたえて、地区の開業医が企画、こつこつと回数を重ね、平成17年12月7日で182回を数えました。病気予防に向けた医師と住民のかかわり方の一つとして注目されています。「健康で長生きをめざす」と関係者はますます張り切っています。

健康教室は地区の調剤薬局が主催し、内科



地域の環境美化推進 清掃や草取り欠かさず

「明るく住みよい、きれいなまちづくりをしよう」と、昭和48年8月18日に勝田中央町会と勝田第一町会、勝田第二町会の会員で勝田長寿会を結成、毎月18日を「清掃の日」と定め、勝田地域のごみ収集場所の清掃と草取りなどを実施し、環境美化活動に取り組んでおります。

さらに①雪解けの時期②5月の連休前③夏

岡造道町会

医の佐々木義樓さんが企画とアドバイザー役を務めています。青森銀行造道支店が会場を提供、当町会が回覧板等で「教室開催」を案内するなど地区をあげて取り組んでいます。

医師の佐々木さんは「医療資源を地区に還元したい」という思いから、無料の健康教室という形になったと言い、毎月第1水曜日夜7時から8時まで開いています。

隔月で栄養士、整形外科医、眼科医、歯科医など外部からいろいろな講師を招き、幅広いテーマで展開しているのも長続きの秘訣だと思います。



お あ ほ の 自 慢

のラジオ体操が始まる前④ねぶた祭終了時⑤勝田稲荷神社の例大祭の時期⑥11月の落ち葉の時期等には勝田公園と勝田稲荷神社の地域を重点に、ごみの収集・草取り・落ち葉集めなど清掃活動に努めています。

会員は現在、50人（男20人、女30人）で清掃活動を通じて会員相互の親睦を深めながら、体験談や健康づくり等をまじえ、楽しく愉かに、和やかに交流しております。

これからも、勝田地域の環境美化のため清掃活動を続け、住みよいきれいなまちにしたいと思っています。

勝田長寿会



頑張っています

ごみの分別も積極的に

上三上町女性の会「つくし」が誕生したのは平成6年。自分たちの住んでいる地域を少しでもよい環境にし、会員相互の連帯と親睦を図るのが大きな狙いです。毎月第1月曜日を定例会とし、健康体操、講演会、施設見学会、趣味の講座（手芸、お菓子作り、茶道、生け花など会員が講師）、バス旅行などで楽しく過ごしております。

町会のお手伝いとしては、廃品回収、花壇の整備、盆踊り、早朝のごみ拾い、またごみ

上三上町女性の会



花壇の草を取り耕す会員たち

分別にも積極的に関わっています。

特に浪館通りに面した古川中学校前の花壇では、季節の花が彩りを添え、道行く人の心を和ませています。設立10周年を機に、一泊旅行など親睦にさらに力を入れています。



おめでとうございます

3町会長が受賞 17年度市表彰

平成17年度青森市表彰の表彰式は10月25日(火)にホテル青森で行われ、町会長として長年（15年以上勤続し、かつ60歳以上）にわたって市勢発展に功績があった次の3氏が受賞しました。

- 細川千代太郎（婁懸町会長）
- 鹿内 正行（戸崎町会長）
- 田村 清孝（稲元第二町会長）

9人の退任町会長が受賞

青森市顕彰

平成17年度青森市顕彰の表彰式が12月19日(月)アップルパレス青森で行われました。

町会連合会関係では、町会長として町会育成指導に貢献（勤続10年以上15年未満）され、退任した9人が功労彰を受賞しました。

<功労彰>

- 櫻田 亮榮（前新町野町会長）
- 三浦 一（前野尻町会長）
- 青木 昭夫（前東片岡町会長）
- 増田 有孝（前曙町会長）
- 今 眞（前古館町会長）
- 宇野 哲朗（前蛭沢町会長）
- 神 正義（前卸町町会長）
- 浦添 英司（前幸畑阿部野町会長）
- 田中 幸蔵（前佃本町第一町会長）

町会要望の交通安全施設

10月に診断、厳しい結果に

平成17年度で町会長等から要望のあった交通安全施設の整備について、町会連合会では10月17日と18日の2日間、関係機関とともに地元町会長立ち会いのもと現地診断を行いました。

要望は信号機が7町会（7カ所）、交通規制標識等が18町会（36カ所）。診断の結果、信号機の設置が1町会（1カ所）、交通規制標識等も4町会（5カ所）しか認められませんでした。予算の関係もあり、非常に厳しい状況です。

哀悼録

富士見町会長 工藤 兼光
（平成17年11月12日ご逝去）
慎んで哀悼の意を表します。

編集後記

今冬の雪が、12月半ばの段階で1月下旬並みの積雪だったことに、市民は「どうか昨年のように多く降らないで」と祈るような気持ちで雪片づけをしていました。週間予報も雪マークが並ぶと、なんとなく暗い気持ちになります。

今冬はどうなるか分かりませんが、昨冬は市の除排雪経費がざっと30億680万円でした。10年前の12億円台がいとおいしいような金額です。

17年度の除排雪事業実施計画を見ると、かなり意欲的な取り組みをめざしていますが、とにかく業者指導を徹底し、市民からあまり苦情が出ない、効率的な除排雪を心がけてほしいものです。